



発行所:ほかにわ共和国
発行責任者:志賀俊紀
編集責任者:ほかにわ広報部



満五十歳になった八雲寮

理事長 志賀 俊紀

八雲寮は、今年の七月一日で五十周年を迎えた。人間で言え
ば、働き盛りである。これを三段跳びに置き換えると、ホップ
のラインは昭和四十五年である。そしてステップのラインは、



八雲寮スポーツ大会での集合写真

老朽移転改築した平成八年となる。そして、ジャンプのラインは、令和二年の本年である。元号が三代に渡っていて、めでたいことである。これから飛躍の真価を問われるのであろう。まずは恒例の新春職員研修会での報告を主事で古巣に戻った松尾浩道に報告してもらおう。

「より支援を必要とする方に合わせたサービスの提供」

今回の研修会では、全体事業所で設定された①事業展開、②地域展開、③人的展開に分けて検討した。事業展開では、日常の中に小さなイベントを盛り込み、日々楽しく過ごす。少人数で外出をし、できる限り意思を尊重していき、マンネリ化からの脱出は重点項目である。地域展開では、施設の「祭」と、「食」の開放を行い、施設を知ってもらう。

人的展開では、リハビリ、農業といった専門職を配置し、重度高齢化が進む中、作業の効率化、無理、無駄を無くし、作物の栽培、食する喜びを感じる事ができるよう展開を進めていく。

八雲寮の歴史は昭和時代

物故者法要



昭和47年(1972年)7月1日の早朝、不慮の事故死から48年経った。先代の理事長は、その事故を忘れてはならないと、その日を法要と決め、今日まで続いています。

この1年で逝去された方は、元山元治様、富永泰裕様、猪目良様、石村明人様の4名。合わせて22名となり、それぞれにたくさんの思い出があります。

新型コロナウイルスの影響で葬儀縮小となり、4月に永眠された石村明人様のお別れ会を家族、利用者、以前の職場の方を招き、執り行いました。

ご冥福をお祈りいたします。



GWに惟神記念館(体育館)にて上映会

既に大きな礎が築かれており、平成時代は、より開かれた施設作りを目的に措置から支援費、総合支援法と制度が大きく変わる中、法は変われど、サービスの質は変わることのない、安心して暮らせる生活を目指してきたように思います。

知的障害者の高齢化が進む中、守るべき所と変化を進める所を明確にし

伝統を大切にしながら利用者の「個」を尊重しつつ、利用者一人ひとりを職員が理解した上で、体力に合わせた作業班の構成と環境の調整を計りながら、状況の変化に柔軟に対応していく施設作りを目指します。

利用者の「しあわせ」

とは何か、目的意識を持ち、常に「何のためにやるのか」を考え、そして、過去を振り返り、今何をやるべきかを意識する事で物事がぶれることなく、未来へと繋がっていくことと信じ「しあわせ」を追求していきたいと思

います。

松尾 浩道

八雲寮に入所され、一年が経ち葛島友斗さんのお母さんにご意見と要望、我が子に対する思いを伺いました。

●施設に対する要望は何かありますか?
母:子供の作業や生活している様子の写真やデータをやりとりできるシステムがあれば良いと思います。

●これからのように成長していつてもらいたいですか?
母:少しずつでいいので、自分の事はなるべくできるように頑張ってほしいです。

●友斗さんにメッセージをお願いします。
母:六月で二十歳になり、大人の自覚が出てほしいです。皆さんから色々なことも学び、成長していくことを楽しみにしています。

頑張れ友斗!

八雲寮 葛島友斗の母より

特集



法人内に4つある専門部のうち、今回はQC推進部をとりあげる。法人のQC活動について部長に尋ねてみた。

—福祉QCの歴史と法人の取り組みについて教えてください。

わが法人の専門活動のひとつである「福祉QC」は、日本福祉施設士会で平成元年から「福祉サービスの質の向上」にむけた取り組みが始まり、全国発表大会も実施されています。その当時から法人内への取り組みを率先して行い、現法人の設立から三年の活動休止期間はあるものの、その後再開し今に至っていることは一つの歴史でもあります。

さて八幡会時代の第十五回までの実績としては、成果物が二冊刊行され九十八の事例発表がありました。

—当初から現在までどんな苦労や成果がありましたか。

活動を当初から見守ってきた上司に話を伺うと、取り組み方やその推進方法に至るまでがQCの初心者であった為、立ち上がりも遅くなかなか定着しなかったとの苦労が聞こえてきました。

そこで改めて刊行物を眺めると手書きの文章やイラストとグラフィックが目につきます。全てがOA化された現在の職員に見せると、そのギャップに驚く姿がありました。

それでも平成十一年度には初の全国発表大会参加、利用者支援や食の提供など全サークル活動の中から二サークルを推薦して送り出し、大会ではユニークな活動と評価され、受賞もすることができました。

今こそ法人のサークルによってスキルは違うものの、活動のツールも的確に使用できるようになってきたというのですが、初めて全国大会に参加したサークルの資料に、講評において七つ道具の使い方の指導を受けた時の原稿に走り書きのメモが残されており、そこから発表者の思いがよく伝わってきます。

—福祉QCについての考えと今後の目標を聞かせて下さい。

私自身も企業に勤めていた時、少しの間企業QCや生産技術に携わらせていただいた期間がありましたが、福祉QCは、また違った感覚での難しさがあると感じています。そして以前に学んだIE(生産技術)では、生産の三要素である「人(Man)」「設備(Machine)」「モノ・材料(Material)」を組み合わせ、QCDIO運動と称して品質・コスト・納期をそれぞれ十パーセント改善しようと目標を掲げ取

り組んだ思いがあります。一般的に福祉QCは、利用者の方々への安定したより質の高いサービスの提供が主な目的です。業務におけるムリ、ムダ、ムラの発見と、重点指向での取り組み、そして自責で問題を追求し、解決していくことは同じであり、その上

にたつて人材育成にも貢献が求められます。要は継続は力なりの取り組みが大切です。私たちの業界は、単なるモノづくりではありません。しかしながら「改善」という共通認識には揺るぎがないと思います。

そして自己自身の改善を求められていると思いつながら、これからは心の通う「改善」と人や組織づくりを行っていききたいものです。

QC活動部 部長 白倉 和裕

ほかにわ共和国の動き

7月末 会計事務所
四半期監査
9月中旬 定時理事会
※8月の夏祭りは中止、各事業所で代替行事を実施



第1回QC発表会の様子(平成5年)

令和2年度 ほかにわ夏祭りについて

毎年8月、地域の皆様との交流、活性化を目的に「ほかにわ夏祭り」を実施しておりますが、令和2年は新型コロナウイルス感染症の予防のために中止することになりました。夏祭りを楽しみにされていた利用者の皆さんも多く、それぞれの事業所で代替行事を計画し、実施する予定です。

サポーターの皆様をはじめ、協賛していただく企業様、たくさんの協力により「夏祭り」が開催できている事に改めて感謝をし、来年度以降の再開に向けて今後とも宜しくお願い致します。

ほかにわ夏祭り実行委員会

売いたか. なう@

3月に移転した口之津港フェリーターミナル内のワークネットやはたのショップ「はあとふる」でデイ雲手織り班、木工班の手作り商品を販売しています。

リニューアルした猫のぬいぐるみや、手作りマスク、ペン立て等を出しています。ぜひ、お立ち寄りください。



m y フーム m y コレクション
昨年友達が、このごろ黒ニンニクを貰ったので食べてる、調子が良いバイと言っていたのを真に受け、自分も作ってみようと思いつ、インターネットで調べ、コメリで種を買い、秋に小さい畑に植え、春に収穫し、炊飯器にセットして十二日、それから乾燥、ようやく完成した。



食べ始めて一か月、今のところ効果が感じられないのはなぜか?それでも来年用の種はとつてある。
柿の木 福田伸太郎

令和元年度 決算報告

【社会福祉法人ほかにわ共和国】

【貸借対照表の要旨】		【事業活動計算書の要旨】		【資金収支計算書の要旨】	
科目	金額(千円)	科目	金額(千円)	科目	金額(千円)
資産の部		活動増減		事業活動収支	
流動資産	555,167	サービス活動収益	527,977	事業活動収入	533,674
固定資産	708,168	サービス活動費用	484,947	事業活動支出	467,281
(基本財産)	520,810	サービス活動増減差額	43,030	事業活動資金収支差額	66,393
(その他の固定資産)	187,358	サービス活動外収益	5,696	施設整備等収入	7,095
資産の部合計	1,263,335	サービス活動外費用	8,352	施設整備等支出	52,327
負債の部		サービス活動外増減差額	△ 2,656	施設整備等資金収支差額	△ 45,232
流動負債	67,802	経常増減差額	40,374	その他の活動収入	545
固定負債	62,338	特別収益	1,546	その他の活動支出	115
負債の部合計	130,140	特別費用	125	その他の活動資金収支差額	430
純資産の部		特別増減差額	1,421	予備費支出	0
基本金	5,559	当期活動増減差額	41,795	当期資金収支差額合計	21,591
国庫補助金等特別積立金	149,630	前期繰越活動増減差額	804,711	前期末支払資金残高	495,913
その他の積立金	131,500	当期末繰越活動増減差額	846,506	当期末支払資金残高	517,504
次期繰越活動増減差額	846,506	基本金取崩額	0		
純資産の部合計	1,133,195	その他の積立金取崩額	0		
負債及び純資産の部合計	1,263,335	その他の積立金積立額	0		
		次期繰越活動増減差額	846,506		

大空

障害者支援施設
八雲寮広報部

お腹いっぱい大満足!

六月四日、八雲寮とデイ雲合同で、収穫祭が行われました。毎年恒例の行事ではありますが、今年にはコロナウイルスの関係もあり、例年より時間短縮で開催しました。今年も玉ねぎやじゃがいもが豊作で、かき揚げやコロッケなど素材を活かした料理が振舞われ、お酒やジュースと共に皆さん美味しく頬張っている様子でした。



ステージイベントでは、収穫された野菜の重さ当てゲームが行われ、八雲寮 vs デイ雲で、指定された重さを目指して、かごの中に野菜を詰

- 8月行事
7日 夕涼み会
- 9月行事
お月見会
親子旅行(予定)



め、どちらが指定された重さに近いかを競い合いました。残念ながら二回戦とも勝利とはなりませんでしたが、かごに野菜を詰めている利用者の皆さんは、楽しそうにしています。

収穫祭終了後には、「今日の料理は美味しかった!」「来年は何の食べられるのかな?」といった声も聞こえ、早くも来年の収穫祭を楽しみにする利用者の方もいて、待ち遠しく感じている様子でした。

来年は時間いっぱい開催できていることを願っています。(加来)

ステイホームin千代垣社の

お部屋ちよと拝見!!

居室にお邪魔してみると、歌を熱唱したり、日記を書いたりテレビを観るなど、一人時間を有意義に過ごしているようです。皆で取り組んでいることと聞いたら、余暇時間を利用してのぬり絵です。季節に合ったぬり絵をしつつ、最近はやラクターや乗り物も塗りたいとリクエストがあり、ご家族の方に見てもらおうのを楽しみに作成しています。



六月七日には地域清掃にて周辺の空き缶やごみ拾いを行い、普段利用している道の奉仕活動を行いました。今後も様々な活動を企画していきたいと思えます。(鈴木・中島)

やっぱりスポーツは楽しかね!

5月23日、八雲寮スポーツ大会が行われました。今年度は、利用者の方が毎年楽しみに参加している長崎県のスポーツ大会が中止となり、その代わりとして中庭や権田公園を使用し、全員参加で種目選択形式で「輪投げ」と「フライングディスク」を行いました。



利用者の皆さんは、久しぶりに屋外で体を動かすことができ、気持ちの良い汗をかくことができたようです。入賞者の方には手作りメダルを、参加された皆さんには参加賞としておやつを提供し、八雲寮らしい楽しいスポーツ大会となりました。(宮原)



映画館「やぐも」へようこそ

利用者の皆さんは、テレビを観ることが大好きです。六月十七日に上映会を行い、今回はリクエストの中から「ウルトラマン」を上映。皆さん、上映前となると、チケットを片手に何やら落ち着かない様子。開場後、いざ画面にウルトラマンが登場すると、歓声が沸き上がりました。上映中、利用者の皆さんは、映画に夢中になったり、画面の中のウルトラマンに呼びかけるなどして楽しんでいました。



映画館「やぐも」はほかにわに楽しく賑やかな上映会となりました。(高松)

がんばらんば宣言

今回紹介するのは...



宮崎 功さん

フライングディスクを
がんばります!!

昭和45年
7月1日入所

じゃがいも雑感!

新型コロナウイルスの影響で、今年のスタートはいつもと違った雰囲気があります。恒例の行事が中止になり、八雲寮でも保護者との面会が三月から行えない状態でした。ステイホームが求められているとはいえ、寂しさを感じている利用者も多くいたようです。久々の面会は六月下旬に行われ、嬉しそうな姿が見られました。家族はやはり特別な存在なのでですね。

私自身、今年度から副主任となり、新しい業務に責任を感じながら毎日試行錯誤しています。支えてくれる家族に改めて感謝をしながら、日々の業務に励んでいます。たらと思えます。(安達)

ひやうどむも

7月号 No.198

創作活動を通じた取り組み

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で例年通りに行事や活動を行うことが難しく、室内で過ごすことが多くなっています。そんな中でも利用者の皆さんに季節の移り変わりを実感してもらえるように工夫をしています。

デイ雲では今年一年間、第一・第三水曜日に全員協力して創作活動に取り組んでおり、月ごとにテーマを取り上げて壁紙の製作を行っています。四月は花見に行けなかったため「桜」をテーマにして創作をおこないました。「鯉のぼり」をテーマに



真剣に創作に取り組んでいる様子



五月は放課後等デイ利用の児童も一緒に制作しました。その後も六月の「あじさい」、七月の「七夕」と続き八月の「朝顔」まで完成しています。たくさんさんの折り紙や画用紙、絵の具を使い見ただ目も鮮やかです。

創作することが好きな方・嫌いな方、創作作業が得意な方・苦手な方、いろいろな利用者の方々がいらつしやいます。それぞれの得意な点を活かすことや楽しんで取り組めることを心がけ、全体で一つの作品ができるよう工夫しています。完成した創作物は施設内の掲示だけでなく、二月の活動発表会で作品展示を行う予定です。お楽しみに・・・

(森)

星空に願いをこめて ～七夕会～

七月七日、七夕会を行いました。今年例年とは少し違い、大きな笹に願い事をみんなで飾り付けるのではなく、一人ひとりが飾り付けた笹を持ち帰れるように小さな笹を個人毎に準備しました。



個人毎に準備した笹に飾り付けを行いました

また、少しでも広い世界があることを知ってもらいたいという職員の思いからプラネタリウムの上映を行い、皆さんからは「きれかばい」「良かったよ」などの感想も聞かれ、会の最後にはみんなで作った牛乳寒天をおやつに食べ、それぞれ思い出に残る七夕会になったようです。(村上)

完成した創作品を季節に合わせて掲示しています。掲示中の七月の「七夕」(上)、次回掲示予定の「朝顔」(下)

中庭プール始めました



デイ雲では今年も学校の夏休みに屋外に簡易プールを設置し、プール遊びを楽しんで頂きたいと考えています。期間中の天候が良い日に午後から活動を予定しており、昨年も泳いだり・潜ったり・ボールで遊んだりと楽しく過ごされていたのがとても印象に残っています。

児童の皆さんには中庭のプールの準備ができたあと利用についての案内を届けております。

今年も夏休み期間中にデイ雲のプールで元気よく遊んで、たくさん楽しい思い出を作って頂ければ幸いです。



(福田)



今回紹介するのは利用者の林田一幸さんです。

現在加津佐町内のグループホームに入居中で週2日程度デイ雲を利用されています。

みなさんと合う機会が少ないですが、デイ雲では農作業を頑張ります。



8月行事予定

- ・そうめん流し
- ・児童プール

雲と虹

今年も例年通りの暑い夏がやってきた。しかしながら、自粛自粛と室内で過ごしてきた為、夏の暑さに慣れていく段階の時間はなく体がついていかない。

自分たちでも対応に苦慮しているのだから利用者はなおさらの事だろう。暑すぎても水分は「いらぬ」「飲まない」という方もいる。無理矢理飲ませるわけにも行かないので「熱中症」になるってテレビが言ってるよ、という何となく理解され飲んでくれた。テレビの力すごい！とりあえず、水分補給は出来たわけが一安心。まだまだ暑い夏は今から本番となるので、いろんな力を借りながらみんな乗り切っていこう。

では、とりあえずお茶を一杯飲んでから・・・

(山本)

悠炉里

共同生活援助事業所

(介護サービス包括型)

悠炉里広報誌

コロナ禍と悠炉里の福祉者

施設長 志賀常盤

元号が令和になり、誰もが新時代の到来へ期待を込めた矢先、新型コロナウイルスの、目に見えない恐怖。予測不能な現象が起きてしまった。当初は中国武漢市から始まった現象がゆえに、過去に起きたSARSやMERSなどを想像し、対岸の火事という気持ちを持っていた人は少なくないだろう。次第に日本へ侵入し大都市を中心に拡大していくと、次第に恐怖と焦りを隠せなくなり、様々な対策が大きな課題となった。

私たちの福祉施設において、感染性ウイルスほど厄介なものはない。集団生活を基準とする実体は一度発生すると終息までに相当な時間を要してしまう。

そこで、利用者に対し、不要不急の外出は控えるため休日の外出自粛、家族等の面会自粛と、人との接触を最小限にするよう対応した。一カ月が過ぎ二カ月が過ぎようとする頃から、ストレスを感じる利用者が次第に現れ、最終的には情緒不安定になる利用者まで現れた。やがて、全国的な自粛が解消され、徐々に日常を取り戻すことで、安定した日常が訪れたのである。

前述したように、福祉施設は閉鎖的であれど、マイナスに捉えるのではなく、前向きに捉え、施設の中で日常生活を充実させ、心のケアを行う必要性があると強く感じる。コロナ禍が完全終息するものと考えず、職員一同が工夫



以前は休みの日にボーリングを楽しんでいたが...

する知恵を身につけ、環境変容自体に力を発揮できる施設を目指さなければならぬ。



～限られたGW中の余暇活動～

コロナ禍の自粛で小G活動が四月から中止となっていたため、ゴールデンウィークには、楽しいことがしたい！と、ハイツのみんなで手作りおやつ・蒸しパンを作ってみました☆

①材料をまぜまぜ②カップに入れて③蒸しあげたものに生クリームとイチゴで盛り付け！それぞれ好きに飾り、みんなのテンション最高潮！『いただきまーす！』の掛け声と同時に平らげてしまいました(笑満足満足！(田中))



おやつ作り 蒸しパン

おかわり！

する知恵を身につけ、環境変容自体に力を発揮できる施設を目指さなければならぬ。

スポットライト



4月よりバリアフリーの杜垣荘に移動した高木トシコさん。

日常生活での転倒の危険性を減少するため、段差の多いハイツから高齢化対策に特化している住居への移動になり、一安心ですね！

過ごしやすくと本人さんも話されています。元担当の職員が遊びに行くと、素敵な笑顔で迎えてくれます。安心安全な場所で、ずっと元気に過ごしてくださいね☆ (荒木)

トシコさん、ナイスショット！！ (吉田)



レクリエーション グラウンドゴルフ

またある日には、身体を動かし、自



悠炉里での新型コロナ対策

今年1月に日本でも確認された新型コロナウイルス。入居施設としての対策はしっかりやっています。通院・買い物時のマスク着用、うがい手洗いは必須項目。各ホームにアルコール除菌スプレー配置、食卓もアルコール除菌、掃除もこまめに行っています！早く終息しますように… (下條)

今後の行事予定

- ・2020ほかにわ夏祭り (悠炉里 ver.)
- ・ホーム活動

ゆるりと

余暇支援は、利用者の方によりよい支援を提供していく中で、GHの重要な役割である。

休日の余暇の時間の過ごし方については利用者それぞれの過ごし方がある為、強制的な余暇への参加が制限されている中で少しでも気分転換になればと、全員参加のグラウンドゴルフ大会やホームでのおやつ作り等を計画し取り組んでみた。個々の余暇の過ごし方も大事だと感じるが、たまには全員で取り組む余暇も必要と感じた。

支援員は日頃見る事のない、余暇活動に一生懸命取り組んでいる利用者の方の表情を見ることができると感じる。これも一つ、双方が余暇の充実を感じられるものではなかったか。

(大場)

我ち愛

障害福祉サービス
ワークネットやはた
広報誌 7月号

働くことの喜び

今年の十一月で七十七歳になり喜寿を迎える鹿田さん。その隣で作業する池田さんは二十一歳。二人の歳の差は五十五歳。

鹿田さんの年齢を言うと驚かれませんが、普段は体力・食欲と衰え知らずといった印象で、被服作業に従事して四十年を超え、周りの方は心配するも「働ける間は働かんば」が口癖で、今なお被服班の精鋭の一人です。

池田さんは被服作業に従事して四年目。気持ちが優しすぎて、自分の意見や行動に自信を持ってない面も見られましたが、作業を通して自信が



作業中、冗談を交えながら...

やはた教育通信

今年度初めに、利用者の方の意見を取り入れることを目的とした利用者会議を行いました。会議の中で、「履歴書の書き方を知りたい」「面接はどうしたらいいのかわからない」など今後の活動に参考になる内容でした。

今回は、「仕事とは？」を題材とし利用者の方へ講義を実施しました。その後、みんなで意見交換をし仕事に対する思いを各々文字に表してもらい発表する中で、「好きなものを買うために頑張りたい」という意見が多く出ました。

一般就労を目指すために自分の考えを表現する力を身に付けていってほしいです。

また、利用者の方たちだけでなく我々支援する側も共にスキルアップしながら、強く優しい職場を築き上げていきたいです。

(要平)



「働く」ことについて考える



(松尾)

月に一度のお祝いを

毎月十五日に誕生日会を行い、利用者皆さんはその日を楽しみにされています。

今年度は町内の菓子屋に相談をして、三種類のケーキの中から選択してもらい形としました。昼食時に誕生者を紹介し、ケーキを渡す際には、利用者・職員全員で歌を歌い、とても賑やかな雰囲気の中、皆さん満面の笑みで喜ばれています。渡したケーキで、自宅やGHでお祝いしてもらい、様々な楽しみ方をされているようです。



皆の前で誕生者紹介！

今後も利用者の希望に寄り添い職員が知恵を絞り、楽しく喜ばれる誕生日会にしていくよう努めていきます。

(草村)

ワークネットやはた この人

名前：山岡 洋一さん

Q) 趣味はなんですか？

「走ることです」

Q) 休日は

何をされていますか？

「掃除や、買い物をしたりしています」

Q) 今後の目標は何ですか？

「ワークで頑張って、就職をして安定した生活を送りたい」

●今年の4月よりワークネットやはたを利用されています。被服班に所属され、アイロンからタタミ作業まで、一生懸命に取り組まれています。



散歩道

最近、テレビでよく目にするのは「私たちの高総体がなくなつた」というニュース。高総体に代わる都道府県レベルでの大会開催の動きも見られる中、今までにない経験をしている選手たちは一つの区切りをつける為、何を残し、歴史をどう継いでいくか試行錯誤していることであらう...

そんな中、利用者一人ひとりが自然と役割を持つようになり、以前から大事にしてきた家庭的な雰囲気は継承されています。仕事前には、担当別に掃除を必ず行い、皆が心地良い環境を整え仕事に取り掛かります。食事の際は、準備から片付けまで役割を持っていきます。



(山田)

これからも、全員で気を引き締めながら協力していきましょうと思えます。

(要平)

しほは、しほ

世界にひとつだけの布

感染症拡大防止による外出やイベントの自粛で、未だ、エコバックや洋服など先行きが不透明ですが、ど、ほかにわないオンライン今年度のイベント販売に向けて、レインボー班では、たいと奮闘中です。絶賛新作開発中です。

「婦人・子供服一級技能士」ふる『や柿の木売店』この資格を持つ田浦支援員を波これと、各種イベントに迎え、今までなかった販売予定です。



織りの色が鮮やかな製品です
カラーでお見せできないのが残念

大石さんのご家族より、「自長下肢装具を持参してもらい、のご家族と寄り添って頑張る生活で病院にリハビリに行 実際訓練を行ってみると、いいこうと思いました。(真帆) けない」ということをお聞きし つもとは違う「笑顔」がありました。リハビリに行けない自分か思っていた「反応と分、座位や立位などの耐久性低 違っ 一歩一歩 て、とて下や、筋力低下が予測されるのも驚き、同時に大石さんは歩くで、柿の木リハビリでも取り入 ことが好きなんだなと知ること

リハビリを実施するために
これからも利用者の方や、そ



「水を浴びるゾウ」
絵：石川智宏さん作



私たちの愛読書は!?自分で決める



放課後のひとコマ。昌汰さんと悠乃さんが熱心に読んでいるのは、何の本でしょう。よく見てみるとなんと予想外!二人は仲良く並んで【辞典】を読んでいます。

使わなくなった本や雑誌を譲っていただく色々な種類を準備できます。何に興味を持つのかを選ぶのは、本人です。「僕は、勉強が好きなんだよ」と昌汰さん。読みたい本があつてよかつたね。(恵理)

実録 園田 翔一郎 飛雲荘で暮らしてみたい
私の家族の事情で、グループホームで生活する機会ができました。グループホームでは、入居者が互いに助け合い、心を交わし共同生活が楽しい暮らしであつてほしいと願う一

よろしく!

持っている技術で色々な製品作りに取り組み、柿の木の一員として頑張ります



田浦 智子支援員

持っていると急いで自室に戻りTVに夢中。彼らの姿は互いの交流が閉ざされているようでした。一日を終え、帰宅した家には、紫陽花が庭に彩りを添え、水温が上がった池では、食欲が増した鯉と鰻が、「付度」なく餌をねだるようか? (園田)

今年こそ...
南島原市が推奨する「パッションフルーツで緑のカーテンづくり」に賛同し、パッションフルーツの栽培を始めるようになりました。一度開花を見逃すと二度と開花はしないため、人の手を借り受粉をするこの花と、私は毎日ならめっこです。(知佐美)



受粉に成功し結実

言の葉

「付度」の意味は、相手の意図や感情を察したり、予測したりする事だが、ある問題の発覚以降、権力のある相手にご機嫌をとつたり、ひいきする事と解釈されたり、ひいきするようだ。組織における中間管理職の役割は、相手のニーズと相手に求めるニーズの折り合いをつけるために、上司に同僚や部下にも「付度」する技量が問われる場面が多い。しかし、相手の事を考えているつもりが、無意識に、自分の事を考えてしまう。「相手は自分の事をどう思うだろうか」或いは、「今後の自分との関係に悪い影響が出ないか」と。そのために言動を控えたり、遠慮したり、個人的にそおしつつ等の行動をとったり斟酌してしまふ事もあるかもしれない。はあ日本文化的難問題、力及ばず。窓の外に眼をやると、盛り

7月の行事

誕生会・菖蒲湯	2日
河川アダプト	8日
(弁当の日)	
夏祭り	18日

ペスタロッチと志賀幸村翁

ほかにわ共和国は、旧八幡会から分離独立した法人である。その理念は、神社神道に由縁がある。創設者は私の実父志賀幸村(1899-1975)である。幸村の顕彰碑の碑文に、『ペスタロッチ』の一文がある。そして書棚に、永田新(1870-1960)が訳したペスタロッチの著書集がある。私は、研究者ではない幸村が?…と疑問に思っていた。

最近、ダウン症の研究の中で、スイスのアーデンベルグでグッケンビュール(1800-1856)が世界で初といわれる「福祉施設の原型」を実践している。そして、ペスタロッチ(1746-1827)は貧民の学校の建設を成し、自らがその宿舎で生活を共にして、教育を実践している。また、彼をを師と仰ぐフレーベル(1782-1852)は、世界で初めての幼稚園を創設している。しかも、フレーベルは、幼児期における遊びの教育的意味を重く見て、積み木を中心とする教育遊具を考案している。このフレーベルの教育的積み木の手法は、知的障害児の教育の治療教育の一環として、応用し活用されている。



ペスタロッチ肖像画

さて、わが国へのダウン症研究の伝播を調べてみると、幼児教育及び白痴教育の躰には、家庭教育が基本であるとするペスタロッチやフレーベル、そしてセガン(1817-1880)の取り組みが、津曲裕次編著『滝乃川学園百二十年史』に示してある。

そして、蒙古症に関する経緯を検証していくと、石井亮一の渡米して、セガンの未亡人から恵送を受けた著書が影響を与えていることが判る。例えば、石井が、幼児教育で有名なフレーベルの「三位一体」の理念に関心を示していることも分かった。

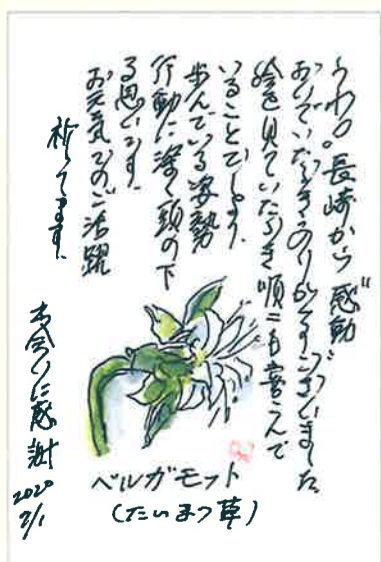
ペスタロッチが教授している「三位一体」とは、「思想の基礎的原理は、神、自然、人間の三位一体、つまり三者の神的統一にある。」とされている。そこで、ペスタロッチを崇拝していた日頃の幸村節に、「この子たちは、神の子タイ」というキーワードがある。ペスタロッチは、貧民を救済する基本が食卓を囲むことから家庭教育の原点であると指摘している。幸村が重視した「神道と直会(なおりい)」の関係である。

確かに、キリスト教(イエスキリスト)と神道(天照大神・八百万の神)というように、“創造主”は異なるが、まずは、「生命保持、神

様から同じ食事を頂くこと」が、大前提で、ペスタロッチの「教育は愛なり」という語録に連関しているのである。

理事長 志賀 俊紀

27歳で夭逝したダウン症の画家中村順二氏の美術館が千葉県にある。母・宮子さんより素敵な手書きの便りが届いた。順二氏と美術館の内容については次号にて報告したい。



追悼 渡邊尚海先生
思いがけない渡邊尚海理事の他界である。私の誕生日四月十六日の前日に大学病院の定期検査無事終了を祝って、自宅・歯科医院の道隔てた戸北米穀店の店主と三人で、かれこれ十数年続く春の行事である。私が大手術で命にご縁があり、励ましてくれた先輩である。私に、「としのり君」と呼んで下さる先輩だった。私より三年ばかり遅くこの街に来られて、おじいさん時代からの歯科医師で施設の嘱託医を四十年もして頂いた。先生は御酒をこよなく愛された人で、誰からも好意を持たれた人だった。



法人研修旅行での思い出



役員視察研修旅行 東京・滝乃川学園で (平成 28.5.30)

渡邊理事には、平成二十八年の五月に法人の役員研修旅行に参加していただきました。二日目に東京・国立市の滝乃川学園を視察し、石井良一・筆子記念館や「天使のピアノ」の見学を行いました。滝乃川学園理事の米川氏より説明を受けましたが、石井筆子が大村藩の出身ということもあつてか感銘を受けたのが印象に残っています。(小山)

石村明人さんお別れ会

令和二年四月十三日七〇歳で逝去された石村明人さん。新型感染症の影響で告別式は近親者で執り行われ、職員・利用者最後の別れは出来ませんでした。しかし、ご家族の共に生活してきた仲間に見送ってもらいたいと強い願いから、七月一日に「お別れ会」を惟神記念館で執り行いました。お別れ会では、ご家族から明人さんの思い出を語られました。生まれつき小児麻痺の障害を抱えており、股関節・肘・膝の変形を治す為、小学校に入学するまでは嬉野国立病院に治療に通われ、小中学校と、その障害が原因でいじめを受けた時期もあつたそうです。十五歳で八幡会あけぼの学園に入所された家族は、本当にやっていけるのだろうかとお心配されていましたが、生活していく中で「心のゆとり」「施設のありがたさ」を本人も家族も感



じるようになり、施設が住み慣れた場所と変わっていったそうです。八幡会創設者の「精神薄弱者と云えども自ら働いて自分で自活の道を開かせること」という教育理念の基、当時はまだ社会では生きづらさもある中、明人さんは障害者雇用の先駆けとなり加津佐町内企業で勤められました。手先の器用さを活かして何事も一生懸命。地域の人に頼られ、愛される人柄でした。お別れ会を通して明人さんから、生前かけてくれた何気ない言葉の優しさや思い出をご家族へ伝えることができました。長い時間を共に過ごした私達が、これまでの思い出を伝えることは家族の癒しにもなり故人の尊厳を守る事にもなつたと強く感じます。(悠炬里・大場)